

## 国民の皆様へ

### 国からの財政投入

#### ●出資・承継

平成16年の法人化にあたり、国からの出資として1,549億円を資本金に計上しています。資本金の内訳としては、土地や建物等の旧国有財産と、財政投融资資金等からの借入により取得していた資産の合計額から借入金の合計額を差し引いた差額等が計上されています。この他に、物品や債権等についても法人化時に国から承継しています。

なお、法人化以降、国から出資された土地の一部（研究林、留学生会館、等）を売却したため、これまでに3億円の減資を行っています。

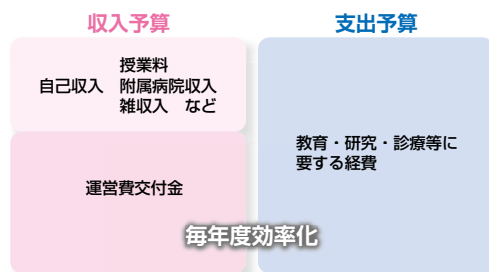
#### ●運営費交付金

大学の業務運営の財源として、国から運営費交付金が交付されています。本学への平成24年度の交付額は372億円で、大学全体の収入の約37%に相当します。

運営費交付金は、授業料や附属病院収入等の収入予算と、教育・研究・診療等の実施に要する支出予算との差額を主として、国が算定します。なお、運営費交付金の算定ルールには、経費削減や効率化等の考え方に基づき、係数によって毎年度一定額を削減するしくみが導入されており、本学は効率化に対応しつつ、業務運営にあたっています。

なお、前年度対比で10億円の減少、法人化以降の9年間で76億円の減少となっています。

運営費交付金算定イメージ



#### ●施設費等

建物の整備等の固定資産の取得を行う場合など施設整備に要する経費として施設整備費補助金が交付されています。また、国立大学法人等の土地処分収入等を財源として施設整備（主に営繕事業）資金を交付する国立大学財務・経営センター施設費交付事業の制度も設けられています。

本学への平成24年度の施設費等交付額は前年度比34億円増加の61億円で、大学全体の収入の約6%に相当します。

本学では、国からの施設費等と自己財源をあわせ、中長期的な施設整備計画に基づき様々な施設整備を実施しています。

教育研究環境の整備状況は33ページ参照

### 業務実施コスト（国民の皆様にご負担いただいているコスト）

国民の皆様が大学の活動に対してどれだけコスト負担をしているかを明らかにするために「国立大学法人等業務実施コスト計算書」を作成しています。このコスト計算書は、損益計算書上のコストを元に、損益計算書には計上されないが広い意味で最終的に国民の負担に帰すべきコストを加え、国民の直接の負担とはならない自己収入等を除いて算出したものです。

平成24年度の本学の業務実施コストは434億円です。これを国民総人口（約1億2,744万人）に基づき国民一人当たりに換算したコスト負担額は前年度と比べ約1円減少の約341円となります。

国立大学法人等業務実施コスト 434億円

国民一人当たりコスト負担額 約341円  
業務実施コスト（434億円）÷ 人口（1億2,744万人）

※ 人口：平成25年1月1日現在 総務省統計局データより

経年推移は26ページ参照

## 在学生・受験生の皆様へ

### 学生納付金収入

平成24年度における学生納付金収入は、授業料82億円、入学金13億円、検定料3億円であり、大学全体の収入の約1割を占めています。

授業料については前年度比約2億円の減収となっておりますが、これは主に免除制度の拡充によるものです。

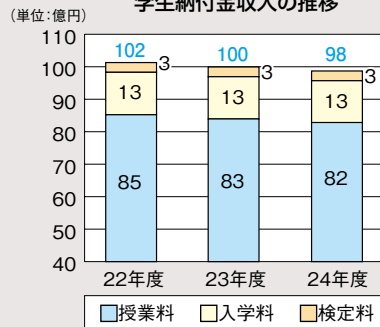
学生納付金収入については、教育にかかる各種費用や教育施設・設備の購入等に充当されています。

収入全体に占める学生納付金収入割合 9.8%

学生納付金収入(98億円)÷収入全体(1,001億円)

学生納付金の関連情報は37ページ参照

学生納付金収入の推移



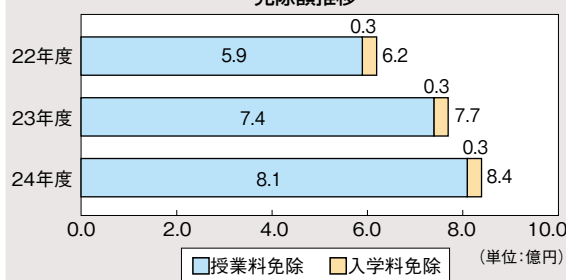
### 入学金・授業料免除制度

経済的理由から授業料又は入学金の納付が困難で、かつ、学業優秀と認められる学生には、全額、半額又は1/4を免除(入学金については全額又は半額)もしくは徴収を猶予する制度があります。

平成24年度においては学生への支援の充実を図るべく、入学金3千万円、授業料8億1千万円を免除しました。

授業料、入学金を合わせた総額では学生納付金免除にかかる国からの支援もあり対前年度比7千万円の増となっております。

免除額推移



### 奨励・表彰・助成制度

奨励金～学業・研究に熱心に取り組む学生を称える奨励金制度があります。

●新渡戸賞(24年度実績:91名、各20万円) ●大塚賞(24年度実績:10名、各50万円)

●鈴木章科学奨励賞-自然科学実験-(24年度実績:7名)

本学の全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、かつ、本学の目指す全人教育の理念にふさわしい1年次学生を表彰するため、平成23年3月に設けられたものです。

表彰制度～成績優秀者を対象とする表彰制度、課外活動で優秀な成績を修めた学生を対象とする表彰制度があります。

●えるむ賞 ●ペンハロー賞 ●レーン記念賞

### 北海道大学クラーク記念財団助成事業

財北海道大学クラーク記念財団では、本学の教育研究、海外留学等に対して毎年助成事業を行っており、平成24年度における学生への研究助成事業は総額約3千9百万円となっております。

事業内容	採択件数	助成額
教育研究活動支援事業	博士後期課程在学生研究助成	14件 7,000千円
教育研究国際交流支援事業	博士後期課程在学生海外派遣助成(学会等発表)	15件 2,230千円
	学部学生等海外派遣助成(留学)	長期留学 20件・短期留学 8件 5,560千円
	外国人留学生奨学金助成(給付・単年度限り)	3件 1,800千円
奨学育英事業	学部学生奨学金助成(貸与)	新規 10件・継続 26件 21,050千円
その他の事業	学業優秀者表彰助成(クラーク賞)	50件 880千円

### 外国人留学生等支援

総長奨励金	本学と交流協定を締結している外国の大学等の出身で本学大学院に入学を希望する学業成績優秀等の留学生を対象としています。	修士課程等15名に対して約2千2百万円を支援しました。
私費外国人留学生特待制度 特待プログラム奨学金	本学の大学院博士課程に入学を希望する外国人留学生で学業成績優秀等の留学生を対象としています。	博士課程39名に対して約1千8百万円を支援しました。
中国政府派遣留学生受入制度	中国政府が定める「国家公派研究生項目」により、博士の学位取得を目的として、中国から本学に派遣される留学生を対象としています。	博士課程等190名に対して約1億5百万円を支援しました。
一時金貸付制度	留学生が、臨時にお金が必要となった時、審査のうえ5万円を上限として6か月間無利子で貸し付ける制度です。	

## 北大元気プロジェクト

学生が自主的に企画・立案を行い、キャンパス生活の充実、地域社会との連携及び本学のPR活動などに対し、その経費の助成を行うものです。平成24年度は、45件の応募のうち26件の企画を採択し、プロジェクト遂行に必要な経費（プロジェクト1件当たり50万円以内）約8百万円の助成を行いました。

## TA・RA経費

TA（ティーチング・アシスタント）とは、優秀な大学院生を教員の指導のもとに、教育補助者として参画させる制度であり、大学教育の充実・改善につながり、大学院生に教員・研究者になるためのトレーニングの機会を提供することを目的としています。

RA（リサーチ・アシスタント）とは、優れた大学院博士後期課程の在籍学生を研究プロジェクト等の研究補助者として参画させる制度であり、研究活動の効果的促進と若手研究者としての研究遂行能力の育成を目的としています。

平成24年度は、これらの大学院生に前年度より約2千万円増の2億7千万円を支給し、大学院生の経済的支援を行っています。

支給実績 (単位：百万円)

区 分	23年度	24年度
TA	191	195
RA	59	79
合計	250	274

※外部資金による雇用分を除く。

## 教育関係経費

平成24年度における学生の教育に要した経費の総額は、約211億円となっています。

この教育関係経費を学生一人あたりに換算すると年間約119万円となります。

学生の教育に要する経費は学生納付金収入の他、運営費交付金や外部資金等様々な資金によってまかなわれています。

学生一人あたり教育関係経費(年間)約119万円

教育関係経費(21,095百万円)÷学生数(17,718人)

教育関係経費の内訳 (単位：百万円)

区 分	23年度	24年度
教育経費	4,103	4,616
教育研究支援経費	2,068	1,304
損益外減価償却相当額 <sup>※1</sup>	2,016	1,978
教員人件費[×1/2] <sup>※2</sup>	13,925	13,197
合 計	22,112	21,095

※1 損益計算書に計上されていない経費で、国から出資された資産(1/2を教育用資産としています)や施設費補助金、目的積立金を財源に取得した教育用資産の減価償却費です。

※2 教員人件費の1/2を教育に要した費用としています。

## キャンパスの充実

教育活動の充実、発展のために教育環境整備に係る設備投資は不可欠なものです。

平成24年度に実施した教育活動施設（福利厚生施設、課外活動施設など）の主な整備事業は以下のとおりです。

- 図書館情報システム更新【リース資産】…………… 1億1千万円
- インターナショナルハウス北8条1号棟改修 …………… 1千万円

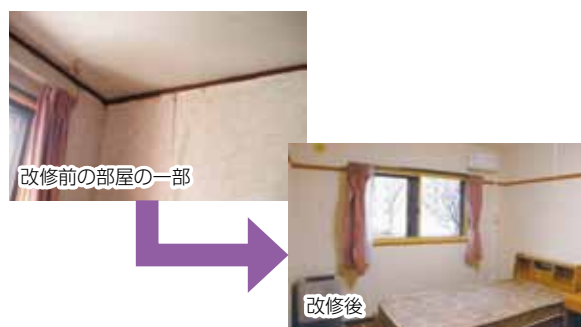
平成24年度は教育目的の建物や備品等の取得に約10億円を支出しました。ただし、図書館情報システムは、リースによる取得のため、取得年度に取得額全額を支出しているものではありません。

平成23年度はスパコンの更新や附属図書館の再生整備事業が相次いだ分、当年度の設備投資額は大幅に減少しております。

しかし、平成25年度には、インターナショナルハウス北8条2号棟を改築予定であるなど、留学生への支援体制の充実を更に図っていきます。



図書館情報システム



インターナショナルハウス北8条1号棟

教育目的設備投資の内訳 (単位：百万円)

区 分	23年度	24年度
土地	6	0
建物	1,744	24
建物附属設備	1,284	23
構築物	46	4
機械装置	249	144
工具器具備品	4,972	639
図書	217	209
美術品	0	0
合 計	8,518	1,043

※本表に計上されている金額は、有形固定資産の取得額を示しています。ただし、建設仮勘定は除きます。

## 大学病院ご利用の皆様へ

北海道大学病院の使命と役割は、「安心・安全で思いやりのある医療」の提供であり、どのような患者さんをも受け入れる地域医療における最後の砦機能を有している病院でもあります。また、教育・研究施設として、患者さん第一の人間性豊かで高度な医療技術を持つ医療人の育成、生命医科学における新しい先端医療技法の開発研究などに鋭意取り組んでいます。



## 大学病院の財務状況

平成24年度の財務状況については、入院診療単価の上昇などにより北海道大学病院の附属病院収益は増加しており、業務収益が307億円で大学全体の業務収益879億円の約35%を占めています。

下表のとおり、会計基準会計における業務損益は黒字を維持していますが、運営費交付金の削減や長期債務の返済負担が多額であり、実質設備投資の圧縮を行っているため、経営は非常に厳しいのが実態です。

詳細については、24ページ「大学病院業務損益の推移」をご覧ください。

患者数 (単位：人)

区分	22年度	23年度	24年度
入院	296,322	298,791	299,489
外来	759,221	771,622	759,935
計	1,055,543	1,070,413	1,059,424

附属病院業務損益 (単位：百万円)

区分	22年度	23年度	24年度
業務費用	26,655	27,922	28,688
業務収益	28,917	29,947	30,651
業務損益	2,262	2,025	1,963

大学病院セグメント情報 (単位：百万円)

区分	大学病院 (全体に対する割合)	大学全体
業務費用	28,688 33%	86,034
診療経費	14,549 100%	14,549
人件費	12,342 28%	44,672
その他(教育研究等)※	1,797 7%	26,813
業務収益	30,651 35%	87,861
病院収益	25,834 100%	25,834
運営費交付金収益	2,933 9%	33,561
その他(外部資金等)	1,883 7%	28,465
附属資産	27,324 9%	292,407
土地	3,576 3%	128,141
建物	11,039 15%	73,452
構築物	171 7%	2,421
その他	12,538 14%	88,393
減価償却費 (※の内数)	2,420 33%	7,429

経年推移は24ページ参照

## 現在までの主な取り組み

### 診療体制の充実

#### ●小児がん拠点病院に選定

本院は、平成25年2月8日に「小児がん拠点病院」として指定されました。「がん対策推進基本計画」(平成24年6月閣議決定)の目標の一つとして挙げられている「小児がん患者とその家族が安心して適切な医療や支援を受けられるような環境の整備」に資するよう、本院は、豊富な人材、多様な連携、充実した施設、豊富な経験を基に、地域における小児がん診療の円滑な実施を図るとともに、質の高い小児がん医療の提供体制を確立し、北海道で中心的な役割を果たしていきます。

#### ●外来診療の紹介制・予約制の開始

本院は、高度な医療サービスを提供する「特定機能病院」として、厚生労働省から承認されています。本院は、地域医療機関との連携を推進し、国の方針である病院及び診療所等との機能分担を図るとともに、専門性の高い診療を効率的に行うため、紹介制・予約制を進めており、平成24年度中に一部の診療科で開始し、平成25年4月からは内科系外来で開始しました。今後は、外科系外来においても紹介制・予約制を開始し、地域医療機関との連携をより一層進めていきます。

### 最新医療機器の導入

#### ●ダ・ヴィンチSi サージカルシステムの導入、大型医療機器の更新等

ダ・ヴィンチSiサージカルシステムとは、身体に負担の少ない低侵襲な内視鏡下手術を支援するロボットです。このロボット手術は、開腹手術に比べて傷口が小さいため、出血量が少なく、合併症のリスクが低減します。手術後の回復も早く、入院期間も開腹手術に比べ4～5日間短縮されるため、早期の社会復帰が可能となります。

平成24年4月に、前立腺がんに対して全摘出術を行う場合に保険適用となり、患者さんの経済的負担が軽くなりました。今後、ロボット手術がより身近になり、ロボット手術を選択する患者さんが増えることが期待されています。

そのほか、本院では、古い医療機器を順次、最新の医療機器に計画的に更新し、患者さんに高度で質の高い医療を提供させていただくとともに、診療・検査の効率化を進めています。



「ダ・ヴィンチSi サージカルシステム」



「IVR対応アンギオCTシステム」(手前：アンギオ(血管造影装置)、右奥：CT装置)

## 患者サービスの向上

北海道大学病院では、患者さんに安心・快適にご利用いただくため、サービス向上に向けて様々な活動を行っています。

### ●アメニティコートのリニューアル

本院の目標である「患者本位」の、患者さんにやさしい病院であることを目指して、売店やレストランなどの福利施設の充実が図られ、平成25年度からは、レストラン「ロイヤル」、コンビニエンスストア「ローソン」、「サーティワンアイスクリーム」、「タリーズコーヒー」がオープンしています。

また、アメニティコートは、北海道の自然をモチーフにした“森の小径（こみち）”をコンセプトとして、壁紙やフロア材、店舗の内装までコーディネートされており、患者さんや利用者の方に少しでも楽しんで食事や買い物をしてもらえるように配慮がなされています。

### ●日本ハムファイターズ選手と院内学級児童・小児科患者との交流

北海道日本ハムファイターズの監督と選手たちによる、院内学級に通級する子供たちと小児科に入院する子供たちを激励する会が年に一度、開催されています。これは本院スポーツ医学診療科がファイターズのチームドクターであるという縁から、ファイターズからのご提案により実現し、平成24年度で6回目を数えます。

院内学級の子供たちとの交流会では、監督・選手が、子供たちとのキャッチボールや記念撮影会、質問タイムなどを通して触れ合い、子供たちからは応援メッセージが書かれたフラッグが、監督からはファイターズグッズのプレゼントが渡されました。また、病室から出られない子供たちについては、監督・選手が病室を一つずつ訪れ、励ましてくれました。子供たちにとっては、これから病気と闘っていく上での勇気とかけがえのない思い出となりました。

また、患者さんと職員等が共に楽しく交流できるように「看護の日の夕べ」や写真展、講演会等さまざまな院内イベントも開催しています。（右写真「七タの夕べ」）

### ●外来駐車場の拡張整備

本院では、これまで、駐車場の収容台数などの問題から、時間帯によっては病院敷地外まで車列ができ、病院を利用される方はもとより、道路を走行されている方にも、大変ご迷惑をお掛けしておりました。また、駐車場設備の改善についてのご意見・ご要望もお寄せいただいております。

このため、駐車場の維持管理と利便性のより一層の向上を図ることを目的に、駐車料金の改定を行わせていただくとともに、収容台数を増やすための駐車場の拡張や車椅子専用駐車場の増設、駐車場から病院建物までの通路への雨よけ屋根の設置など、駐車場の拡張整備を行いました。



（アメニティコート全体図）



「日本ハムファイターズ選手と院内学級児童小児科患者との交流」の様子



「七タの夕べ」の様子  
（平岸天神のYOSAKOI演舞）

## 先端的医療の研究開発

### ●臨床研究中核病院整備事業の開始

本院は、厚生労働省の「平成24年度臨床研究中核病院整備事業」（事業期間：平成24～28年度）に採択されたことを受け、初年度となる平成24年度は、業務体制や規定の整備、事業実施主体となる高度先進医療支援センターの組織改編、臨床研究支援業務を推進するための各種スタッフの増員、施設拡充のための計画案の策定、生体試料管理のための大型超低温冷蔵庫等の設備導入、臨床研究に関する倫理指針の遵守についての職員への周知徹底など、事業の第一歩を踏み出しました。本事業は、日本発の革新的な医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患や小児疾患等の新規治療開発、最適な治療法の確立を目指し、国際水準の質の高い臨床研究を実施することを目的としております。この事業を通じて、本院は、今後も引き続き「信頼される臨床研究」を行い、「北海道から世界へ発信する」臨床研究拠点となるべく尽力していきます。

### 平成25年10月より外来新棟での診療開始

現在の外来棟北側に、6階建の外来新棟が新築され、平成25年10月より診療を開始する予定です。

1階は、「腫瘍センター」「地域医療連携福祉センター」のフロアです。通院で治療を行う「外来化学療法センター」、がんによる苦痛を緩和する「緩和ケアチーム/外来」、がん患者さんやご家族からのさまざまな相談に応じる「がん相談支援室」など、腫瘍センターの各部署が同じフロアに集結します。さらに、がん患者さんやご家族の情報交換・相談支援の場として「患者サロン」を新設し、がん診療拠点病院としての機能を拡充します。地域医療機関との連携や退院調整を行う「地域医療連携福祉センター」も移設し、相談機能を充実させます。

また、2階～6階は、歯科診療フロアです。これまで渡り廊下で繋がっていた歯科診療センターを移転し、医科・歯科外来診療の一元化を実現します。これにより、診療から料金精算までの動線がシンプルでスムーズになり、患者さんの利便性が飛躍的に高まります。また、専用駐車場を新たに設けます。歯科診療用ユニットスペースも今までより広くし、さらにユニット間についたてを設置することで、プライバシーに配慮します。今後、外来新棟における診療開始に伴い、今以上に、地域病院やクリニックとの連携を強化し、なお一層、地域に根ざした医科・歯科トータルの診療を目指します。



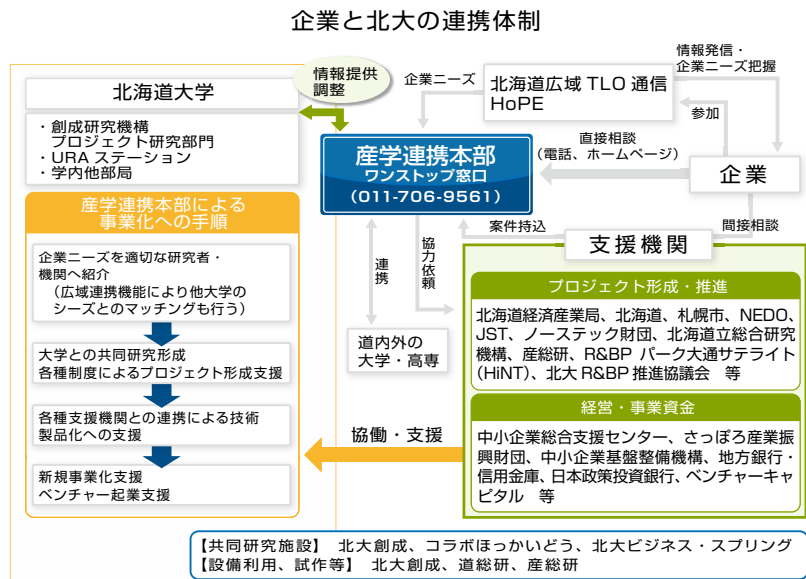
## 企業の皆様へ

### 産学連携本部 ～産学連携に関するワンストップ窓口～

本学の基本理念に「実学の重視」があります。これは、基礎研究のみならず応用や実用化を重んじ研究成果の社会還元を重視するという意味で、本学における研究の中には、北海道の産業とともに発展したのも少なくありません。

平成21年4月に知財・産学連携本部を改組して誕生した産学連携本部は、教育・研究に次ぐ第三の使命である社会貢献をより具体的に実現できるよう専門人材の採用等により産学連携機能を強化しました。同年5月には、TLO（技術移転機関）部門が文部科学省及び経済産業省から承認TLOの承認を受けました。

企業の皆様と本学との連携体制は右図の通りです。産学連携本部は産学連携のワンストップ窓口となり、本学各部局や道内他大学・支援機関等とのコーディネートを行っています。



地域・企業と北海道  
**アクセス方法：北海道大学HPトップ▷大学を結ぶ産学連携▷産学連携本部ワンストップ窓口**

### 広域連携・地域連携 ～道内他大学・支援機関等との連携による社会貢献～

本学の産学官連携活動の特徴の一つに、道内他大学・工業高等専門学校との連携・協力による広域連携と、研究開発や事業化、経営といった分野に応じた地域の支援機関等との連携・協力による地域連携があります。これは、主として道内中小企業の皆様と効果的な産学官連携を推進し、地域産業の活性化に資することを目的としています。

道内中小企業の皆様のニーズは極めて多様で、本学だけでは対応できない場合も数多くあります。しかし、このような連携・協力関係を活用することで、幅広い分野で、情報提供から技術相談、共同研究、事業化プロジェクト、大学発ベンチャー起業支援、経営アドバイス等、ステージに応じたお手伝いを可能にしました。

また、平成21年11月に創刊した月刊のメールマガジン「北海道広域TLO通信」は、北見工業大学・酪農学園大学・室蘭工業大学・公立はこだて未来大学・本学の技術シーズや研究室・研究者情報を提供するとともに、企業、特に道内中小企業の皆様のニーズをお聞きする窓口としています。料金は無料で、現在約1,700先（平成25年7月現在）に配信しています。

平成24年11月には、産学官のプラットフォームなどの機能を担う「食と健康」研究会を立ち上げ、さらに、行政・研究機関など18機関（うち企業13社）と共に、「家庭を核とした食・医融合によるゆるぎない健康生活の実現」をテーマとした共同事業を、文部科学省平成24年度補正予算事業「国際科学イノベーション拠点整備事業」に提案し、平成25年3月7日付で採択されました。

今後も、道内外の大学・工業高等専門学校や支援機関などとの連携を強化し、産学官連携機能の充実・強化に取り組んで参ります。

#### 道内他大学・支援機関等との連携協定締結状況（産学連携関係のみ）

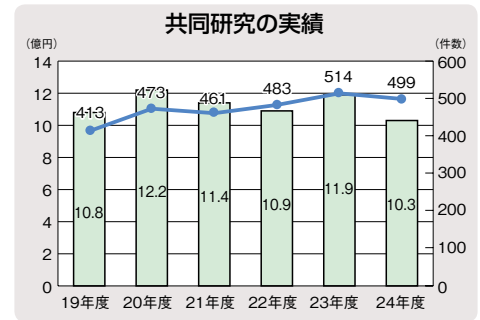
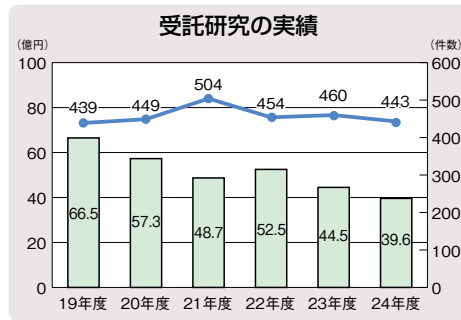
連携協定等の相手先	協定等締結年月日
財団法人北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）	平成21年 6月 2日
国立大学法人北見工業大学	平成21年 6月 4日
学校法人酪農学園 酪農学園大学	平成21年 6月 4日
国立大学法人室蘭工業大学	平成21年10月 5日
函館工業高等専門学校・苫小牧工業高等専門学校・釧路工業高等専門学校・旭川工業高等専門学校	平成21年12月15日
一般社団法人北海道中小企業家同友会産学官連携研究会HoPE	平成22年 6月30日
地方独立行政法人 北海道立総合研究機構	平成23年 3月29日
大地みらい信用金庫	平成23年10月 5日
公立大学法人公立はこだて未来大学	平成24年 2月 1日



「食と健康」研究会  
 安全・安心で高品質な「食」に恵まれた北海道において「食」「健康」「医療」分野のプロジェクト立ち上げを目指し、その取り組みを創出するための産学官のプラットフォームとして機能。

## 受託研究・共同研究

大学の研究者が企業等から委託を受けて研究を行う「受託研究」及び大学の研究者と企業等とが共同で研究に取り組む「共同研究」における本学の実績は以下のとおりです。産学連携への取り組みを強化しておりますが、景気動向の影響を受け、受入件数については受託研究・共同研究ともにほぼ横ばいとなっております。また競争的資金の補助金化の影響等で受入金額については合計で約6.5億円の減少となっております。今後もより一層競争的資金の獲得に努め、長期的視野を持った基礎研究から社会の要請に応える応用研究まで、創造性豊かな研究を行い、その成果を社会に還元していきます。



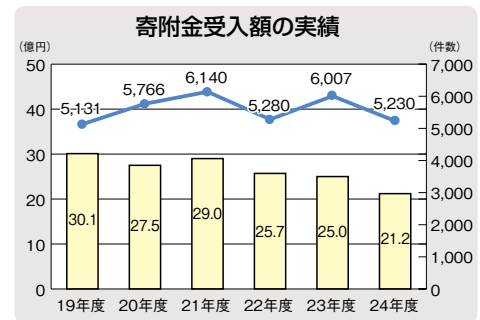
## 寄附金

寄附金は、大学において企業や個人篤志家から研究教育の奨励を目的とする寄附金を受け入れて、学術研究や教育の充実発展に活用する制度です。寄附金は、各種研究設備や図書等の充実など寄附の趣旨に沿って機動的に使用され、その成果を通じて、本学のみならず広く社会に貢献しています。

また、教育研究の奨励を目的とする企業等からの寄附を有効に活用して、大学の自主性及び主体性のもとに「寄附講座・寄附研究部門」を設置・運営する制度もあります(寄附講座等の設置状況は右下図のとおりです)。

右記のグラフは、「寄附講座・寄附研究部門」を含めた大学全体の寄附金受入額を示しています(図書等の現物寄附を除く)。

「北大フロンティア基金」の創設により、受入件数は年間約5,000～6,000件となっております。受入金額は大口径終了等の影響でここ数年減少傾向です。



寄附講座等の設置状況

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
設置件数	25	29	33	35	33	29
新規設置件数(内数)	6	6	11	5	2	2

「北大フロンティア基金」についての詳細は16ページ参照

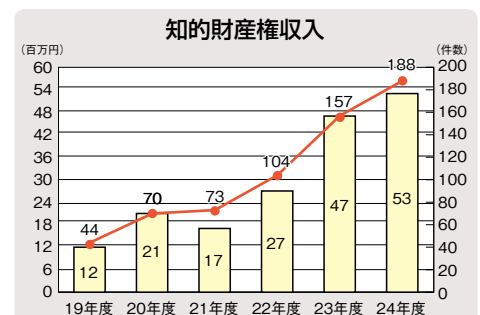
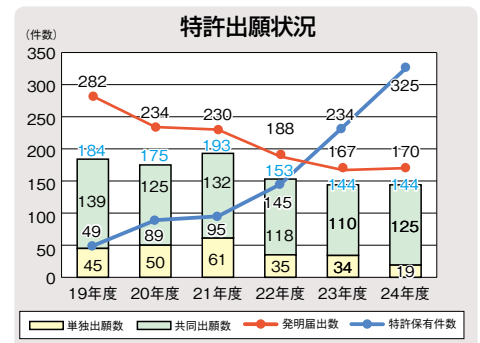
## 知的財産権を生かした産学連携活動

特許制度は、発明者に一定期間、一定の条件のもとに特許権という独占的な権利を与えて発明の保護を図る一方、その発明を公開して利用を図ることにより新しい技術を人類共通の財産としていくことを定めて、これにより技術の進歩を促進し、産業の発達に寄与しようというものです。平成24年度の国内の特許保有件数は325件と年々増加しており、本学の研究成果が形として現れております。

本学では、研究成果を特許化して産業界へその利用を許諾(ライセンス)し、一時金や産業界がその特許を基に生み出した製品・サービス等の売り上げに応じた実施料を申し受けています。具体的には、特許出願した発明を技術シーズとして蓄積し、産学連携本部のスタッフが各種イベントでの紹介や、ライセンスの可能性のある企業への売り込みを進めています。

平成24年度の国内出願件数は144件となり、前年度と同数となりましたが、ここ数年の事前審査強化及びライセンス収入が期待できる案件への絞り込みにより、質の高い特許出願が継続して行われております。

また、積極的な譲渡、実施許諾契約の締結により、知的財産権収入が53百万円となり、前年度と比較して6百万円増加し、過去最高額となりました。



特許権、実用新案権、意匠権、著作権、ノウハウ、有体物を含む(商標権は除く)

## 地域の皆様へ

### インフォメーションセンター「エルムの森」

JR札幌駅から徒歩7分。東京ドームのおよそ38個分という広大なキャンパスの自然に溶け込む明るいガラス張りの建物がお出迎えします。まずはこちらへお立ち寄りください。学内のイベント情報や観光の案内を行っています。

また、本学の各種広報誌の閲覧、大学紹介DVD視聴、インターネットを利用した本学に関する各種情報の検索ができるほか、大学構内を散策される方などの休憩場所としてもご利用いただけます。

建物内にある「エルムの森ショップ」では、文具や記念品などの北大グッズに加え、大学認定のハム、日本酒、梅酒、北海道大学出版会発行の書籍などを販売しており、軽食や飲み物を販売しているカフェもあります。

なお、「エルムの森ショップ」の平成24年度売り上げは、ほぼ前年度並みの約3千3百万円となっています。



#### インフォメーションセンター「エルムの森」

札幌市北区北8条西5丁目（正門横）TEL:011-706-4680  
開館時間 8:30～17:00（年中無休 ※年末年始を除く）

※学内行事により臨時に閉館及び開館時間を変更する場合があります。  
※環境・安全面を考慮して、北大構内にはお車での入構はできません。  
ご理解とご協力をお願いします。

	H22	H23	H24
来場者数(万人)	14	15	15
売上(百万円)	34	34	33

### 公開講座・OCW（オープンコースウェア）

本学の研究の成果を公開講座として広く一般の方々に提供しています。講義形式のものから体験学習のようなものまでバラエティに富んだ講座があります。平成24年度は32講座を実施し、約2千4百人の方が受講されました。

なお、平成24年度における公開講座収入は前年度並みの約6百万円で、当収入は公開講座の運営費に充当されています。



#### 公開講座

	H22	H23	H24
講座数(講座)	36	37	32
受講者数(人)	1,633	2,072	2,389
講習料収入(百万円)	5	6	6

OCW（オープンコースウェア）は、インターネット上で大学の講義資料や講義映像などを無償で公開するものです。本学では教養科目をはじめ、専門科目や公開講座などの一部の講義資料や映像を公開しており、本学の教育の内容を、より広く、分かりやすく伝えています。

**OCWへのアクセス方法：北海道大学HPトップ▷オープンコースウェアのバナーをクリック**

### 緑のビアガーデン

平成18年度から毎年、「緑のビアガーデン」を本学百年記念会館において開催しています。この催しは、美しい緑のキャンパスの夕べをビアガーデンとして広く一般に開放し、多くの皆様に足を運んでいただくことで、本学を身近に感じてもらうことを目的としています。

平成25年度は7月30日～8月2日の日程で第8回を開催し、期間中、比較的天候に恵まれたこともあり、多くの方々にお越しいただきました。今回は生物生産研究農場産の西洋野菜チコリと、静内研究牧場産の牛肉で作ったローストビーフをサラダに使用し、来場された方々に「北大の味」をご賞味いただきました。

一般の来訪者のなかには、このビアガーデンを毎年楽しみにしている方も増え、北大キャンパスの夏の風物詩として地域に定着してきています。



	H22	H23	H24
来場者数(人)	1,300	2,800	3,400



## 総合博物館（本館・水産科学館）

本学には、札幌農学校の開校1876年（明治9年）以来、現在まで130年余にわたる研究の成果として、1万数千点に及ぶ生物のタイプ標本を含む総計4百万点を超える貴重な学術標本が残されています。1999年に創設された総合博物館は、それらの標本の多くを保管し、次世代へ伝えるとともに、研究はもとより、学生・大学院生の教育、小中学生、高校生等の学習にも活用されています。

また、水産科学館は本学函館キャンパスに位置し、1958年に開館した本館、1983年に増設された別館、および1988年に旧北洋研究施設を改装・整備した水産生物標本館から構成されており、広く学生、市民に公開されています。展示資料には海洋生物の標本、漁具資料、標本の水槽展示、北大の研究者が発見した魚の精密画のパネル展示など新しい展示も加わりました。

なお、総合博物館、水産科学館とも入館料は無料です。

### 来館者数

	H22	H23	H24
総合博物館（人）	104,661	105,583	97,899
水産科学館（人）	3,084	2,747	1,589



鈴木章名誉教授のノーベル化学賞受賞についての展示（本館）



ニッポノサウルスとデスモステイルスの化石標本（本館）



本学附属練習船の模型の展示（水産科学館）

## 植物園

北大植物園は本学の附属施設として研究・教育・実習を主な目的とし、古くから一般市民に公開され広く自然教育に役立つように運営されてきました。

園内は広さ13万3千㎡、110年前の自然地形に約4千種類の植物を栽培・分類し生態学的展示を行っています。特に北方圏冷温帯植物・北海道固有植物の収集と保存、外国産主要植物・エンレイソウの系統保存、北方民族資料の収集保存、北方圏動物・哺乳類鳥類の剥製標本の収集と保存及び重要文化財の建物などを公開しています。

なお、平成24年度における入場料収入は前年度とほぼ同額の1千6百万円で、植物園の管理運営費に充当されています。

	H22	H23	H24
来場者数（人）	53,848	48,069	48,092
入場料収入（百万円）	17	16	16



高山植物園



絶滅したエゾオオカミの剥製



博物館本館（重要文化財）

## 動物病院

動物病院は、大学院獣医学研究科・獣医学部の教育・研究施設です。動物達の病気の診断と治療を通じて動物福祉の向上に努めています。同時に、学生の獣医臨床教育ならびに高度先端獣医療の開発と難治性疾患の病態解明などの社会的使命を担っています。

なお、平成24年度は診療実施日の増加など診療体制をさらに充実させる取組を行い、動物病院収入は約2億7千万円で、前年度から約5千5百万円の増収となりました。

また、施設の老朽化や近年の来院数の増加に伴う混雑等に対応すべく、平成25年5月に動物病院をリニューアルオープンいたしました。今後は、新動物病院にて、獣医療の高度化と臨床獣医学分野の人材育成をより一層推進していきます。

	H22	H23	H24
動物病院収入（百万円）	166	225	270



## より良く知っていただくために

### 研究関係経費

平成24年度の研究関係経費の総額は249億円で、常勤教員一人当たりには換算すると約1,185万円になり、前年度より74万円増加しています。

研究経費は前年度より約18億円増加していますが、これは複数の大型プロジェクトにより取得した高額な設備にかかる減価償却費の増が主な要因となっています。

一方、受託研究等については、受入額の減少に伴い前年度より約7億円減少しています。

教員一人当たりの研究関係経費（年間）：約1,185万円

研究関係経費（24,928百万円）÷常勤教員数（2,104人）

#### 研究関係経費の内訳

（単位：百万円）

区分	23年度	24年度	増減額
研究経費	9,674	11,451	1,777
受託研究等経費	6,444	5,778	△ 666
科学研究費補助金等（直接経費）	5,414	5,588	174
損益外減価償却相当額*	2,194	2,111	△ 83
合計	23,726	24,928	1,202

※損益計算書に計上されていない経費で、国から出資された資産（1/2を研究用資産としています）や施設費補助金、目的積立金を財源に取得した研究用資産の減価償却費です。

### 人件費

平成24年度における業務費824億円のうち人件費は447億円で54.2%を占めており、「人が財産」である大学にとっては最大の費用となっています。人件費比率は前年度比1.4ポイント減少していますが、これは、常勤人件費の減が主な原因です。

常勤人件費は、震災復興への対応から運営費交付金が削減され、給与減額支給措置を実施したこと及び退職金の減に伴い前年より13億円ほど減少しています。また、非常勤人件費は、病院スタッフの充実等によって1億円増加しています。

人件費比率：54.2%

人件費（44,672百万円）÷業務費（82,371百万円）

#### 常勤人件費

（単位：百万円）

区分	23年度	24年度	増減額
役員報酬等	150	145	△ 5
教員給与等	20,527	19,970	△ 557
職員給与等	13,463	13,403	△ 60
退職金	3,604	2,921	△ 683
計	37,744	36,439	△ 1,305

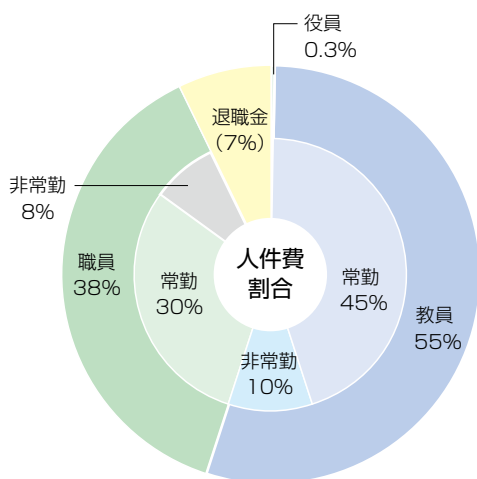
#### 非常勤人件費

（単位：百万円）

区分	23年度	24年度	増減額
役員報酬等	3	3	0
教員給与等	4,835	4,804	△ 31
職員給与等	3,238	3,401	163
退職金	27	25	△ 2
計	8,103	8,233	130
合計	45,847	44,672	△ 1,175

※端数調整のため、各区分の和と合計欄は一致していません。

経年推移は45ページ参照



### 一般管理費

一般管理費は、大学の管理運営に要する経費です。平成24年度は30億円となり、前年度と比較して1億円の増加となっています。なお、平成21年度と比較すると7億円減少しています。

業務費に対する一般管理費比率についても前年度に比べ0.1ポイント上昇し、3.7%となっていますが、これは消費税の申告納付に伴う増などが主な要因となっています。

一般管理比率：3.7%

一般管理費（3,014百万円）÷業務費（82,371百万円）

経年推移は45ページ参照

## 北大フロンティア基金

大学の自主性・自立性をこれまで以上に発揮するために、2006年創基130年目の挑戦として、独自の基金を設けることが不可欠であるとの認識に立ち、広く企業、個人、同窓生及び教職員の皆様方にご支援をいただきたく「北大フロンティア基金」を創設いたしました。募集目標額は50億円で、平成18年10月から活動を開始し、平成25年3月で累計約26億円のご寄附を賜りました。

北大フロンティア基金は、様々な分野を支援しています。

### ● 学生、留学生への支援

奨学金の充実、留学生への教育的及び環境的支援の充実、運動部・文化サークル活動の充実

### ● 研究への支援

男女共同参画事業の充実、若手研究者支援の充実、世界的レベルの研究推進

### ● 社会貢献活動への支援

総合博物館の充実、市民公開講座等の充実

### ● 卒業生・産業界等との連携支援

同窓会との連携、産学連携の強化

### ● 学部等への支援

最新の教育機器、図書等の充実、特定プロジェクトの推進

### ● 施設・環境の整備支援

キャンパスの緑化、歴史的建造物の維持・保存、バリアフリー施設の充実

### 新たな支援

#### ● 新渡戸カレッジの支援

平成25年4月からグローバル社会で活躍できるリーダーの育成を目指し、特別教育プログラムとして「新渡戸カレッジ」を開校いたしました。本基金では、在校生の海外留学等を支援します。

#### ● 鈴木章受賞記念プロジェクト

このたびの鈴木章名誉教授のノーベル化学賞受賞を記念するとともに、鈴木名誉教授よりご厚志をいただいたことを契機として、教育・研究等の幅広い支援を図るために「鈴木章受賞記念プロジェクト」を立ち上げています。

工学部においても、工学部の国際化をより一層推進するための教育・研究環境の充実を図るために「北大工学部鈴木章記念事業」を創設しています。

【このほかにもご支援いただける分野がありましたら、是非ご提案ください】

### 平成24年度収支状況

(単位：百万円)

繰越額	受入額	支出額	利息	期末残高
1,676	(1,456件) 224	114	10	1,796

### 平成24年度実施事業

学生支援を中心に以下のとおり実施しました。

#### (1) 学生支援

- ・ 本学が認定した各種学生公認団体の活動助成、学生の就職活動支援、奨学金制度（平成23年度から国際的な貢献に寄与する人材育成を目的とする北海道大学・ニトリ海外留学奨学金創設、平成24年度から社会の各分野のリーダーとして将来活躍できる人材の育成を目的とするフロンティア奨学金創設）
- ・ コミュニケーションスキルアップセミナーの開催、集団模擬面接体験会等就職支援

#### (2) 学部等支援

- ・ 北大病院院内学級整備【北大病院】

#### (3) 留学生支援

- ・ 生活環境が悪化している留学生への支援のために、留学生1人につき5万円を上限とした貸付制度による支援（北海道大学外国人留学生後援会事業）
- ・ 関道子留学生支援基金より、病気等で困窮している留学生に対して、支援金を給付



エレガントスキー部  
(第40回全国学生岩岳スキー大会  
基礎スキーの部で男女総合優勝)



平成24年度フロンティア奨学金  
(奨学金受給者との記念撮影)



北大病院  
院内学級整備

### 寄付者への謝意

北海道大学の教育研究にご貢献いただいた方へ、感謝の気持ちを込めて、広報誌の送付やイベントへのご案内、北海道大学植物園へのご優待などの特典をご用意しております。

また、寄附をいただいた方については、税法上の優遇・住民税軽減の措置もとられます。詳しくは右記までお問い合わせいただくか、またはホームページをご覧ください。

### 【問合せ先】

北大フロンティア基金事務室

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目（北海道大学事務局内）

TEL:011-706-2017 FAX:011-706-2092

E-mail:kikin@jimu.hokudai.ac.jp <http://www.hokudai.ac.jp/fund/>